

令和5年度 城北高校の夢を叶える学び

スポーツを通して
夢を追いかけ、夢を掴む
普通科スポーツ科学コース 主任 川口 敦

スポーツ科学コースでは、日本国内のみならず世界で活躍できるトップアスリートの育成を目指しています。昨年度は本校野球部卒業生がWBC日本代表に、ハンドボール部卒業生がアジア大会日本代表に選出されました。また、男子バレーボール部在校生が全日本U19強化選手に選出され、今夏開催される世界選手権を目指しています。これら、トップアスリートの条件はケガが少なく、意識が高く、このときに実力を発揮でき、協調性があり、当り前のことが当たり前に行えることです。そのような「人間」を育てるために、体力や技術だけでなく心を育てる教育を施します。

また、現在の日本は少子高齢化が加速しており、健康寿命の延長と児童生徒の体力の向上が大きな課題となっています。この課題を克服する一助となるために、高齢者の方々を対象に、人間の健康保持増進に対する知識を学ぶとともに、行政と連携し高齢者の筋力強化をテーマとした筋力トレーニングや、「やまがとつろくエクスサイズ」の普及に取り組んでいます。さらに、児童生徒に対しては、運動・スポーツの楽しさを知らせ、体力の向上につなげることを目的として、小学校における授業体験や小学生、中学生を対象にしたスポーツ教室を実施しており、これに加えて本年度は幼稚園、保育園における授業体験を計画しています。

このようにスポーツ科学コースでは、トップアスリートを育成するとともに、地域社会との共生、国際社会との共生、そして環境との共生を目指しさらなる進化を続けます。



感性豊かな
人として必要とされる調理師を目指す
調理科 主任 久村 恵美子

今年度の調理科は、五十六名の新入生を迎え、計百六十名の生徒数でのスタートです。日常生活が戻りつつある中、昨年度は少しづつではありますが、調理科の行事を再開させました。フルコース体験やおせち作り、学んだ料理と感謝を詰め込んだ弁当の「家庭への持ち帰り」。そして、地域活性化で三年間の集大成として作った地産地消・フードロスを考えて「当地弁当を高齢者サロンや児童クラブへ配達しました。」

「自分たちが作った料理で人々を笑顔にできる」を実感した瞬間でした。今年度も引き続き、「山鹿の食と農業」をテーマに、主体的に問題提議し、解決策を考える地域活性化に取り組みたいと思います。また、調理科全体の講演を再開し、感性を磨き、地域に向き人々がとらえられあつ機会を増やし、活動を充実させていきます。



学びの深化により国公立大学現役合格

普通科 特進コース 主任 佐々木 智征

特進コースでは少人数制にこだわり、一人ひとりの進路実現にむけた丁寧な学習サポートを行い、進学課外の実施やスタディサプリの無料視聴により、学びの深化を図っています。タブレット端末を普段の授業のみならず、家庭学習、教科担当の先生との個別添削などに積極活用し、進路実現に向けて学習に日々励んでいます。昨年度は半数近くの生徒が国公立大学へ現役合格を果たすことができました。

また、昨年度はオーストラリアのモノロ高校とオンライン交流を行いました。お互いに自分の高校生活や自国の文化を発表し合い、積極的にコミュニケーションを図りました。海外の生徒とオンラインでの交流を通して、異文化への興味、更なる英語力の向上を目指すと、世界に視野を広げ、スキルアップを図りたいと意欲的でした。



地域と「つなぐ」未来を拓く「医療福祉科」
医療福祉科 主任 梅本 洋子

医療福祉科は、福祉を土台に、優しく温かさを学び、高い倫理観を備えた社会貢献ができる人材を育成します。昨年度は、地域活性化プロジェクトの二環として、ユニクロ・グリーンコムと連携をして『服の力プロジェクト』を実施したり、社会福祉協議会や菊池川河川事務所、トヨタ自動車等の協力のもと「城北防災のついでに介護の魅力発信イベント」を実施しました。また、熊本県介護技術コンテストにおいて最優秀賞を受賞し、九州 全国大会にも出場し、全国二位の成績を残すことができました。このような経緯を通して生徒たちは自主的・主体的に学びを深め、介護福祉士国家試験では100%合格を成し遂げることもできています。

今年度も、地域や企業の方々とのつながりながら、進化・深化し続ける学科を目指します。地域の方から信頼される医療福祉科として「チーム福祉」を合言葉に頑張ります。



社会で必要とされる人材の育成

普通科 普通コース 主任 緒方 誠志

普通コースは進学・就職・公務員と自分に合わせて幅広い将来の目標設定ができるコースです。近年は医療系大学進学者の増加、また市役所や税務職など五年連続での公務員現役合格や県内の有名企業就職など、素晴らしい進路実績を残し続けています。これも「真面目な前」の雰囲気の中で、互いに学び合い互いに努力した結果だと思っています。

本コースでは、「山鹿」をテーマに地域活性化プロジェクトに取り組んでいます。これまで、山鹿灯籠祭への参加、山鹿ルタ・紙芝居・竹あかりの制作など、山鹿について学びながら多くの活動を行い、保育園や小学校での交流も実施しました。生徒たちはプレゼン力や表現力、感性を育み、この学びは情報や商業関連の授業とも大きくリンクしています。生徒たちは、これからの社会で必要とされる技術や知識人間力を育てていきます。



「看護の学びを誇り」
仲間と共に楽しく豊かな感性で「看護」を学ぶ
看護専攻科 教務主任 江口 澄子

本校での高校三年間における看護の基礎教育は、「わかる授業」「楽しい授業」「考える授業」を展開しています。看護科一年から解剖生理・栄養などの専門科目をはじめ、看護師の基本である基礎看護技術を勉強します。看護科では、まずは興味を持ち、楽しく「看護」の素晴らしさを学びます。

高校課程では「挨拶」「笑顔」「態度」「素直さ」をモットーに、看護師国家試験合格を目指して、同じ夢を持つ仲間とお互いを励まし合い、協力しながら頑張っています。勉強はとも大変ですが、看護学生として看護師に必要な豊かな感性を育てていきます。

看護科・専攻科の全学年で交流する「学びの伝承」では、先輩から後輩へ多くの学びを伝えていきます。先輩の失敗や成功、勉強法や実習の状況などを知ることで、後輩がその「学び」を活かし、更に豊かな感性で看護の学びを深めます。「看護の学びを誇り」を合言葉として、縦のつながりを大切に、これからも強くなりながら元気な看護科で頑張っていきます。



社会のニーズに応じた看護師育成

看護を学ぶなら城北高校、
看護専攻科 教務主任 赤星 和美

看護専攻科は看護科で三年間学んだ看護の基礎を基に、二年間看護師になるために必要な専門科目を学ぶ課程です。五年一貫校である本校の魅力は、看護師国家試験の高い合格率です。令和四年度も学生全員が目標が実現し、100%合格という喜ばしい結果になりました。

看護師になるという目標実現に向けて、一人ひとりに丁寧な学びの保障ができるよう学習プログラムを確立しています。その中でも、令和三年度から学生全員にタブレット導入を行い、情報通信技術（ICT）を活用するための基礎的な能力の育成を図っています。社会（地域）に求められる看護師の育成ができるよう、気づき（感じ）・考え（地域）に求められる看護の育成をモットーに、看護を学ぶなら城北高校と誇りをもって伝えるような看護専攻科を目指します。



看護師国家試験 100%合格